



埼玉県舞踊協会
NO.29

埼玉県舞踊協会ニュース

Saitama Dance Association

発行所：埼玉県舞踊協会
発行者：津田 郁子
埼玉県さいたま市浦和区東仲町 1-16 鳥昇ビル 3F
TEL:048-882-7530 FAX:048-882-7549

『平成22年度の春』

埼玉県舞踊協会長 津田郁子

戦後、新しい憲法で文化国家を目指したのですが、いつしか、その文化とは、無駄な建造物を造ることに比重が行き、本来の文化芸術の活動を軽く見る傾向があったと思います。ダンス、お遊戯、舞い、踊り、舞踊を表す色々な言葉がありますが、言葉が沢山あることは、色々な局面でダンスが生活の何かを支えてきたということだと思います。学校では男子のダンスも教科の対象になり、新潟では県の支援するバレエ団が活躍しています。国立劇場には、まだ国立バレエ団はありませんが、それなりの活動を行っています。こうした状況は、少しは文化芸術の活動があることを示していますが、一番大切なのは、ダンスが人々の心を結ぶという側面です。

たきりの高齢者の胸の骨を折った女性看護師、猫を7階から投げつけた人、奈良の公園の鹿をボーガンで射抜いた人、そして年間3万人を超える人が自殺するなど、こんな記事が新聞のどこかに見られるような時代になつてきました。

今年度も、ダンスセッション、バレエモダンダンスフェスティバル、ステージ1、全国舞踊コンクール、コレオグラファーの目など、埼玉県舞踊協会としての独自性ある行事を推進しています。行事担当の方々はもとより、ご来場いただく観客の皆さんを、一つの輪にさそひ、皆で手を携えて、大きな輪を創り、人間の素晴らしさを共有する、そのよ

新役員メッセージ

吉田久木子

この度、手島かつ先生の後任として理事を務めさせていただきましたことになりました。

二十五年以上も前に、藤井公先生から埼玉県舞踊協会に入らないかと誘っていただき協会の一員となりました。それ以来、私は理事の先生方が用意してくださった公演などに参加させていただくという呑気な

立場、とても有難い状態にありました。生徒達も、それによって成長してまいりました。でも今後は、先輩の理事の先生方に教えていただきながら、舞台作りをお手伝い出来ればと思つています。

どうすれば、より良い舞台になるのか、一般の観客を引き込むことが出来るのか、また今の時代に何をすればよいか、やらなければならぬ事はたくさんあると思います。

新米ですが、埼玉県舞踊協会が、より発展していけますように精一杯頑張ります。どうぞ宜しくお願い致します。

埼玉県芸術文化祭20周年記念事業に参加して

上田仁美

去る、昨年10月31日(土)、さいたまスーパーアリーナにおいて、埼玉県の事業として開催された埼玉県芸術文化祭20周年記念公演「新」さいたまさちあり」に参加させて頂きました。(埼玉県舞踊協会からバレエ

2団体、モダン7団体が参加)新「さいたまさちあり」は、宮澤章二氏による全5章の構成詩に、新たに第6章が加わったものです。今回の舞台では、舞踊、音楽、合唱、オーケストラ、和太鼓、邦楽、ミュージカルなど多様なジャンルが結集し、1章から6章までの詩をテーマに、1時間半の発表となりました。第2章「炎の朱」は、モダンダンス、日舞、邦楽とのコラボレーションで、その後半では、子どもたちが舞台から客席階段上にも上がり、会場いっぱいに、扇を持つて踊りました。第3章「花の章」では、バレエ、モダンダンス、オーケストラ、合唱のコラボレーションとなり、巨大な布を使用、水の流れて蓮の花を表現した踊りでした。第5章「さいたまさちあり」では、力強く躍動感に溢れた大群舞が、とても印象的なシーンとなりました。

終演後、出演者からは、「生演奏で踊ることが出来、とても気持ちよかったです」とも感動したという声

どの様な関わり方をするのかを、実験的試みとして含め、各作品を楽しんでいただく企画で、原島マヤ作品「秋のワルツ」、細川麻里子作品「残光」、すきまきよ子作品「乱-おんな絵巻」、川初枝作品「乱-おんな絵巻」、窪内絹子作品「風をよむ」、中村友美作品「appassionato」を上演。作者ダンサーが共に意欲的に取り組み、それが観客にも伝わり、会場内を満ちました。十三日は情報ラサザで4時、次代への台頭を期するダンサーたちによる自作自演の小品、コレオグラファーの目が披露されました。(企画)運営 佐多達枝、藤井香、上田仁美、和泉加留留、また、クラシックバレエ講習会が大練習室で1

時々3時、14日10時、12時の二回、クリスティアン・マルティヌを講師に招き開かれ、今回も好評でした。十四日(日)6時開演の大ホールは、韓国からナム・ジョンホを招聘し「Palae」洗濯作品をメインに、(海外)の作品を招聘し、国際的視野を広げる交流を計る主旨で第一回から実行されています。協会員による作品、松崎すみ子振付、笠原千瑠子バレエダンス作品「蒼い春」、藤井香モダンダンス作品「帰る」、木村公香監修・指導、由井カノコ制作、バレエミストレス山本教子、松本直子、堀部明里・シルフィードが上演された。どの作品も高い成果で観客を魅了しました。大・小ホール共に満席であったことも加筆させていただきます。

埼玉県芸術文化祭 2010 参加 第43回 埼玉全国舞踊コンクール 2010

期日	大ホール	小ホール
7/22(木)	クラシックバレエ 2部 予選	モダンダンス 2部 予選
23(金)	クラシックバレエ 2部 予選	モダンダンス 2部 決選
24(土)	クラシックバレエ 2部 決選	モダンダンス ジュニア部 予選
25(日)	クラシックバレエ ジュニア部 予選	モダンダンス ジュニア部 決選
27(火)	クラシックバレエ ジュニア部 予選	クラシックバレエ 1部 予選
28(水)	クラシックバレエ ジュニア部 決選	モダンダンス 1部 予選
	クラシックバレエ 1部 決選	モダンダンス 1部 決選
29(木)	第42回 1部入賞作品披露 表彰式	

コンクールへの参加はホームページからのみ受付いたします
(埼玉県舞踊協会ホームページ)
http://www.saitamaken-buyoukyokai.jp



「鼓動~マルティネーテ&シギリージャによる」
撮影/木上晃実・小川智恵子・高橋大輔

ダンスセッション2010を終えて

企画担当者一同

2010年2月13日(土)・14日(日) 無事両日共盛会のうちにダンスセッションを終えることが出来ました。2年越しの企画、計画の公演ではありましたが、協会理事の先生方、また協会の皆様の大変な御協力の下に本当に皆様に喜んで頂ける公演が出来ました事、担当者一同心から御礼申し上げます。

今年度は、又協会の苦しい財政の中本気でボランティアといえる一人一人のお力添えのお陰で成し得た公演の様に思われます。公先生の熱い思いの埼玉世界創作コンクールの後若松先生に引き継いで頂き何とかとそれ変わる企画を打ち上げられました公演でした。2008年には一千万円近くあった予算も、今回は半分も無い予算となり企画も、転転と変更になり、参加して頂いた諸先生方にも行き届かぬ点が多分にあつたかと思ひますが、本当に役員の方々の先生方、参加者の先生方の心意気で無事終える事が出来た様に思っております。

隔年毎に開催しているダンスセッション2010の総合企画・運営を、由井カノコ、窪内絹子理事と二人で担当させていただきました。企画としては、素晴らしい作品を観客に提供するをモットーに、運営では、助成金ゼロの為、削れるだけ削つて収益を上げる工夫を(これが一番大変でした)直面する問題を、話し合いながら本番を迎え、無事終了いたしました。御協力の方々のお陰と、心から御礼申し上げます。

分開演「スペインの風」では、一部蘭このみスペイン舞踊団による鼓動「マルティネーテ&シギリージャ」による「作品で、迫力ある熱演がスペインの風を場内に吹き上げ満たしました。二部は、ダンスと深い関わりを持つ音楽に視点を当て、イサク・アルベニス没後100年に因み、アルベニスのタンゴを残している伊藤道郎、小森敏を取り上げ、武石光嗣、松元日奈子に再現して踊っていた。合せて日本洋舞のルーツを遡る歴史の一片を観客の皆様にも知っていただくトーク(井村恭子、藤井利子)を挿入した企画で、時を越えたダンスの味わいを楽しんでいただきました。三部は、今の舞踊作品が、アルベニスの音楽と



「タンゴ」



「秋のワルツ」



「タンゴ」



「風をよむ」



「乱-おんな絵巻」



「appassionato」



「残光」



「夢(ロマン)」

彩の国さいたま芸術劇場での競演 バレエ・モダンダンスの会
平成22年度
第37回ステージ I
舞踊界さいたまを目指した創造性豊かでフレッシュな舞台空間にご期待ください。
次代のすぐれた舞踊家育成を目指した研究発表
参加者募集!!
35作品前後、3分~7分までの作品
会場/彩の国さいたま芸術劇場小ホール
月 日/2010年11月7日(日)
入場料/1,995円
お問合せ/048-882-7530(協会事務所)



特別講習会「舞台空間」



クラシックバレエ講習会



「次回」コレオグラファーの目」に、ご期待!

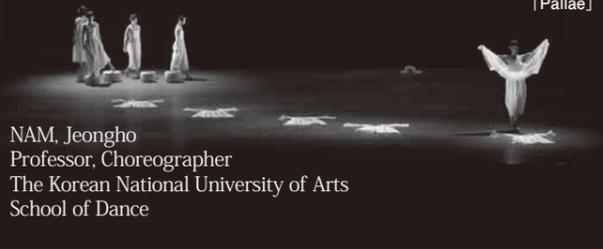
明日輝く為にコレオグラファーの目vol.6を終えて 藤井香

2010年2月13日、ダンスセッション2010のプレ公演としてコレオグラファーの目vol.6が彩の国さいたま芸術劇場情報ラサザ及びガレリアにて上演されました。この会場での上演は2回目ということもあり、参加者は場から受けるイメージを最大限に生かした素晴らしい作品を発表したと思ひます。しかし、その一方で、若いチャレンジャーたちの「目指すダンスを見出せない」状況があるように思ひます。

そこで、今回の「コレオグラファーの目vol.6」は、ダンスで表現するということの奥深さを知る為、先輩達から踏襲してきたダンス表現の枠を一度飛び越えて、新たにダンスを見直してみようという企画にしてみました。次回の「コレオグラファーの目」に、ご期待!

Dance Session 2010

Dear all members of Saitama Dance Association, Thank you very much to the last time at Saitama. I was really touched your warm hospitality and artistic process of performance. And also I really enjoyed a lot to meet people of Saitama Dance Association whom I met longtime ago. I know there are many change of Japanese Dance World but it is always big pleasure to meet same people who become like old friends. Thank you again to give me such a wonderful occasion. Very Friendly.



NAM, Jeongho
Professor, Choreographer
The Korean National University of Arts
School of Dance

2月7日午前9時、JR川口駅に集合したバレエ・ストレスの笠原さん、アシスタントの五十嵐さん、木村さん、思いなかが皆顔がこぼれている。振りも上がり、皆大分明るく気持ちの乗ってきたところなのだが、女性30名、男性6名のうち、数少ない男性が1人、足の故障で出演が危なげな状態。7日のリハーサルに行けるようなら出演も出来るかと云われている。外に出ると冷たい烈風が真正面からぶつかって来る。目を開くのもやっとならぬ。9時30分リハーサル開始。彼は来ていない。10時を過ぎた頃、「もうあきらめて振りを変えてください」と笠原さんに云われ、仕方ない変えようか、でももう二人遅刻で来るはずの男性も来ていない。「携帯」の言葉であわてて連絡、家は出たものの強風のため武蔵野線が動いていないとのこと。「えっ、今何処？」北朝霞。「タタシ」

誰か頼もうと覚悟を決め、堀本美和さんに連絡、加藤静流君に決まった。男性達は皆知り合いで和気あいあい、休憩時間も大稽古場で振りを合わせていたらしい。男性が張りきれば女性の意気も上がる……！
そして迎えた本番、隣にいた笠原さんが、皆、良い顔で踊っている……！とつぶやいたのが心にしみた。彼女は常に冷静できちんとして、子供達にしっかりと教えてくれ、感情に走りだしたと思ってもとても良い組合せだったと思う。とても良いバレエミストレスでした。36名をまとめるため走り回ったアシスタントのお二人、生地選びからデザインまで無料で引き受けて下さった森本さん、いろいろの方に、そして出来事に心より御礼申し上げます。
打ち上げも終わり家に帰ると、本番良ければ全てよし！お疲れ様、おやすみなさい。……と。娘からのメモが置かれていた。



で来いとは云えない距離。離れた頭をかかえ外へ飛び出してしまっしやと思っただけが君は勿論、人の子一人おらず冷たい風のみ吹き荒れている。11日は3時間も舞台を……

工ッセイ

大岩静江
私は6歳からバレエを習い始めました、そして中学生になりバレエを続ける傍ら、字を書くことも好きだった私は書道部に入部し、高校でも書道部に所属しました。手に筆、足にはトウシューズと……しかし学校を卒業しバレエの活動が本格化すると、いつの間にか筆を持たなくなってしまいました。心の片隅には筆への思いがあったので、韓国や台湾へ旅行したときは筆や硯を買って求め、「又、いつか」と……「60の手習い」と言う言葉通り、60歳になったら始めるの？と娘に背中を押されて2007年11月から心は中学生に戻り開始、今年1月に先生から「展示会への出品作品を書いてみては？」と勧められて挑戦してみました。朝9時から夕方5時まで食事時間の30分を除き黙々と白い紙と黒い墨とで自分と向き合う……「何て素敵な時間」「ア～これだけずっとやっていたい」とゼイタクにも思った程でした。そんな特訓を何回か受けて何とか提出しました、そして一通の黄色い封筒が届き「入選」の知らせでした。上野の東京都美術館に展示されると言う思ってもみなかったことでした。
書とバレエ、大きな隔りがあるように思われますが実は共通するところが多く、今さらながら色々な発見を実感しています、例えば筆の穂先が紙に着き又離れる瞬間と、踊るときつま先が床に着きそして離れる瞬間とは全く同じであることや、心のあり方などです。
特にメンタルの部分が大切なのは踊る上にもとても大切なことでものね！



振付をして下さった木村公彦先生、インストラクターの山本教子さん、松本直子さん、堀部明里さんお疲れ様でした。協会の生徒さんたち23名、オーディションにより配役が決定して昨年の8月27日より振付が始まりました。出演者の皆さんは、レ・シルフィードを踊った事のある人が3名、そして舞台を見た事のある人が数人との事で、最初はとても心配でしたが、でも欠席が少なく厳しく熱のある木村先生の指導で、スタジオの窓ガラスは冷房の効果なく曇る程でした。長年に亘ってレ・シルフィードを研究していらした木村先生の振付に、出演者の皆さんも沢山の稽古が当日を含めて3回出来た事、又スタジオの皆さんが毎回参加して下さい、ご協力下さった事、心からお礼申し上げます。本番は出演者一同が一つになり、素晴らしい公演でした。この機会を与えて下さった協会の皆様心から感謝します。

「あなたの人生を要約すると、どんな人生でしたか？」『帰る』のリハーサルはの質問から始まりました。父の死をきっかけに作るかと思っただけの作品は、死を自然に受け入れ、身近なものとして捉えた作品です。私達が「死」について考える時、そこには表裏のように「生」が付きまといまいます。そこで、自分の人生を背負いつつ「死」が展開していくイメージを、作品に投影したいと思っただけです。
冒頭の質疑応答から作り出した動きは、結局、ほんの一部しか作品には組み込めませんでした。この作業によって、私はダンサー一人一人の背景を意識し、ダンサーは、自分を投影しながら踊るという意識を持ってたような気がします。
日々の生活に押し入ったリハーサル時間は、月1740分を越え、度重なる作り直しに耐えなければならぬという状況の中、共に作品に付いて考え、最後まで作者を見捨てず、最高の舞台を目指して踊って下さったダンサーの方々に、深く、深く感謝します。



Aプロ 3月6日(土) Bプロ 3月7日(日)

第43回 バレエ・モダンダンス フェスティバル

川口リアメインホール Aプログラム 3月6日(土)・Bプログラム 3月7日(日)

評

舞踊評論家 寺村 敏

★3月6日★Aプログラム
川名今朝美「天使の奇跡」は女神と羽のある天使、少女達が踊る清らかな印象の作品。一人の少女の死を愛が救うという流れの中で、風のように舞う純白の群舞が美しかった。
山本教子「Play Straus」は爽やかな春を感じさせる群舞。様々なテンポの曲を使って動きが多彩。白い手袋がおしゃれなバレエであった。
山口弓貴子「アンネン・ポルカ」はゆったりと上品である。五十人が「流麗に動く」展開は「白い波」を感じさせ天使たちの群舞に見えた。
大岩静江「森の精霊からの声」—— 森の広場を舞台に精霊と妖精、彼らを脅かす外敵を象徴する少女群舞の三者が力強く踊る。反発、戦いの中から「力強い生命の叫び」が聴こえた。
田中ひとみ「大地に祈る」は太古の時代を舞台にした生命賛歌。狩猟と農耕を象徴した弓と槍を手にした踊りが力強い。輝き続ける太陽に感謝と祈りを捧げる場面が秀逸。
吉田久木子「夢をみえています」—— 上手に設置した「夢のお城」から「夢の妖精」が登場して眠っている少女たちを起す。その少女たちの夢をつづる異色作。なんだか楽しいシンプルな作品だった。

山路瑠美子「メイ・フェスティバル」は「ラ・フィユ・マイ・ガルデ」からピクニック場面を抜粋。メイ・ポールを囲んで少女たちが軽快でおしゃれに元気いっぱいカラフルに弾んだ。
原島マヤ「新たなステージ」—— オレンジの年長組、イエローの年少組……二色の衣装が春から夏に向かう明るい季節を思わせる。「元気に踊り続けるのだ」というメッセージを伝えた……。
すゞきよこ「イタリアン広場へようこそ」は雨上がりの広場で水玉模様のカサとブーケ、花を手にした人々が楽しそうに踊る。見る者の心をスキップさせるにぎやかな作品であった。
窪内絹子「海の小さな勇者たち」—— 海の妖精が小魚たちを、まず動きのタイミングがそろった群舞が心地よい。そこに「恐怖の群舞」が気迫の乱入を見せる。「共存」という結末まで気迫に満ちた作品だった。

★3月7日★Bプログラム
谷 乃梨絵「砂の魔力に眠る宮殿」はアラビアの砂漠が舞台なのだろう。力強く踊る黒は乙女たちと民族衣装姿でキラキラと踊る少女たちのコントラストがいい。風のように舞う姿が寂寥としていた。
佐藤良寛「ホーランド・ダンス」はチューリップの国オランダの民族舞踊。木靴を履いたバレエで「花祭り」の雰囲気をかもし出す。次回は何を見せてくれるか楽しみだ。
細川初枝「レインボーウォーター」は不思議感覚の作品。波音のなか壺刀を手にした盗賊が秘宝を狙う。童話の絵本を見る楽しさの中で少女たちが多彩な踊りを見せた。
穴水かおり「ヴァーナルの颯」はG・バランシン振付で知られる「シルビア」の曲を使ったバレエ。全員が赤いチュチュでさわやかに踊る。後半の力強い流れがなかなか。
山崎麻矢「妖精の森」—— とても可愛い作品だ。森の広場で青い妖精十五人が思い思いに遊ぶ。そこにピンクの少女四人がやってきて一緒に踊る。「仲よし」をテーマに、ゆったりとした展開がいい。

小林和加枝「呼吸する大地—明日も夕焼け」—— 「床を手のひらで打つ」「床を踏む」という力強い動きを通して「地に足をつけて生きよう」と説く。夜が明ければまた新しい一日が始まるのだ!!
和泉加留留「ティータイム」—— 少女たちにとって昔も今も「おやつ」は楽しみだ。パーガー好きの子、キャンディ好きの子、クリーム、砂糖の精などがにぎやかに踊って夢をふくらませた。
藤井利子・高野尚美・藤井香「朝のリレー」—— 起床から登校まで……朝は子どもたちも忙しい。歯磨き、洗顔、食事、ランドセル用意——その「やらなくちゃならないこと」をチーム、リレー形式で見せる。慌ただしくてのどかな日常風景が楽しかった。
中村友美・上田仁美「Swing, Brother, Swing」はスイング・ジャズに乗って年長組から少女まで約四十人が全力で踊る群舞。年齢・技量を越えて踊る楽しさを教え、観客の心を弾ませた。
井上美代子「宝石のしずく」はダイヤ・金・アメジスト・ルビー……宝石の精たちが次々と踊る展開。キラキラと輝くクラシック・バレエで公演を締めくくった——。

●協会員報告	おめでとうございませう、受賞のお祝い申し上げます。
●編集後記	山中弓貴子氏 埼玉県文化ともしび賞
●編集後記	ダンス・セッションも盛況に終わり、次世代の活躍を期待する声に頼もしさを感じております
広報部 笠原千均子	山本教子
毒美バレエスタジオ発表会	04/4(日) 16:00 板橋区文化会館 大ホール
由井カナコバレエスタジオ	03(6977)9775 板橋区文化会館 大ホール
Amis de Ballet Spring Concert	04/5(月) 17:00 さいたま市市民会館おみや 大ホール
第23回河上正子バレエ研究所発表会	05/2(日) 16:00 さいたま市市民会館おみや 大ホール
マンナバレエスタジオ発表会	05/5(祝水) 16:30 さくらめい太陽のホール
第19回菅田清子バレエスタジオ発表会	05/16(日) 16:00 川越市市民会館 やまぶき会館
津田若松モダンバレエ研究所	05/30(日) 13:00 埼玉県会館 大ホール
第12回アキオキムラ遠藤彰子ダンスフォーラムコンサート	06/6(日) 14:00 さいたま市文化センター 小ホール
中村友美・上田仁美モダンバレエ	04(709)7180 アキオキムラ
第6回発表会	06/20(日) 13:30 春日部市民文化会館 大ホール
第56回生徒発表会	04(8)73450004 中村友美
第52回発表会	07/31(土) 15:00 所沢市民文化センター ミューズマキホール
佐藤バレエパフォーマンス	08/22(日) 15:00 佐藤良寛
佐藤バレエパフォーマンス	08/22(日) 15:00 春日部市民文化会館 大ホール
山本教子バレエスタジオ第18回発表会	09/26(日) 16:00 山本教子
Do COLORS [PPINKI]	04(8)523517 山本教子
04(8)8372507 市川華代	04(8)8372507 市川華代

協会員催し物のご案内
2010年4月5日